

ニューズレター雪氷北信越

No. 52 1996年11月6日

(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

<案内>

- ・石川地区学習会
- ・公開シンポジウム「雪と氷の世界から見た地球環境の変動」
- ・福井における表層雪崩シンポジウム
- ・第21回雪氷防災研究会・第10回新潟県雪対策研究会
「10年ぶりの“普通の冬”-95/96冬季-」

<報告>

- ・富山・石川地区見学会「九頭竜川流域」

<その他>

- ・ニューズレターに関する問い合わせ先

<案内>

案内 石川地区学習会

日 時：1996年12月9日（月）15:30-17:00

場 所：金沢大学工学部 秀峯会館（金沢市小立野2丁目）

講 師：高瀬信忠（金沢大学工学部土木建設工学科）

演 題：水循環と河川について

問合先：村本健一郎（金沢大学工学部）

Tel 0762-34-4890, Fax 0762-34-4900

案内 公開シンポジウム「雪と氷の世界から見た地球環境の変動」

下記のとおり、公開シンポジウムを開催いたします。平成8年度文部省科学研究費補助金の助成を受け、一般向けに行う、初めての催しです。皆様、お誘い合わせの上、ご参会いただけますようお願い申し上げます。

主 催：社団法人 日本雪氷学会

後 援：東京都教育委員会、千代田区教育委員会

日 時：1996年11月22日（金）14時～17時

会 場：KKR HOTEL TOKYO（竹橋会館）

プログラム：

開会の挨拶	(社)日本雪氷学会会長	若濱五郎
変動するアジアの雪氷圏	名古屋大学大気水圏科学研究所	上田 豊
雪の景観に地球温暖化の息づかいをみる	防災科学技術研究所	納口恭明
氷結晶に秘められる環境情報	北海道大学低温科学研究所	本堂武夫
私の見た南極海の自然	南極観測船「しらせ」元艦長	久松武弘
北極海の氷と雪の世界	北極横断探検家	高野孝子
極域雪氷圏と気候変動	国立極地研究所	渡邊興亜
閉会の挨拶	(社)日本雪氷学会関東以西支部長	樫田武彦

協力：(社)日本雪氷学会関東以西支部

問い合わせ：日本雪氷学会事務局

〒102 東京都千代田区富士見 2-15-5 ベルベデーレ九段 207号室

TEL:03-3261-2339 FAX:03-3262-1923

e-mail:seppyo@pis.bekkoame.or.jp

J90101@sinet.ad.jp

案内

福井における表層雪崩シンポジウム

主旨：福井県は毎年12月の第1週を雪に備える週間とし、県民に広く雪および雪対策への関心を広めることに協賛して行なう事業である。先の冬は福井県内では珍しく大きな表層雪崩が多く発生し、スギ造林や治山堰堤等に被害を及ぼした。表層雪崩の実態と力学的挙動についてのシンポジウムを行ない雪崩問題についての知見を広める。

主催：福井雪害対策研究会／福井県

後援：(社)日本雪氷学会北信越支部／福井県雪技術研究会
／(社)雪センター

期日：1996年12月4日(水)13:30～16:00

場所：福井県職員会館(〒910 福井市松本3丁目16-10 / Tel:0776-26-0111)

内容：開会挨拶 福井雪害対策研究会長(本多義明 福井大学教授)

(1) 煙形表層雪崩の力学(数値シミュレーション)

長岡技術科学大学環境・建設系 福嶋祐介教授

(2) 平成8年冬期の福井県における雪崩発生報告

雪対策・建設技術研究所

(3) 雪崩対策事業(1) 砂防課

(2) 森林保全課

閉会挨拶 雪対策・建設技術研究所長

連絡担当：福井県雪対策・建設技術研究所 杉森正義 / Tel:0776-35-2412

案内

**第21回雪氷防災研究会・第10回新潟県雪対策研究会
「10年ぶりの”普通の冬”-95/96 冬季-」**

長岡雪氷防災実験研究所は新潟県と共催で、標記の研究会を下記のとおり開催します。昨冬は 86/87 冬季以来続いていた暖冬傾向が一段落しました。もう一度、身近な雪の問題を考え直したいと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：1996 年 1 2 月 4 日（水） 1 3 : 0 0 ～ 1 7 : 0 0

会 場：アトリウム長岡 大会議室

長岡市弓町 1 丁目 62 番 TEL：(0258)30-1250

主 催：科学技術庁防災科学技術研究所長岡雪氷防災実験研究所
新 潟 県

プログラム：

開会挨拶

特別講演（13:10～15:30）

1)95/96 冬季の広域雪氷災害の調査報告

新潟大学積雪地域災害研究センター 小林 俊一

2)平成7年度十日町市の雪害状況及び雪対策について

十日町市建設課克雪利雪対策室 池田 克也

3)普通の冬の雪崩災害 - 雪崩研究最前線 -

長岡雪氷防災実験研究所 納口 恭明

4)雪害の変遷とその社会的背景について

岩手県立盛岡短期大学 沼野 夏生

調査研究発表（15:40～16:55）

雪氷に関する調査研究概要の発表および意見交換

閉会挨拶

お問い合わせ先：

長岡雪氷防災実験研究所 岩波 越・東久美子

〒940 長岡市栖吉町前山 187-16

TEL：(0258)35-7522 FAX：(0258)35-0020

e-mail：iwanami@nagaoka.bosai.go.jp

新潟県企画調整部地域政策課雪対策室 白井健一

〒950 新潟市新光町 4 番地 1

TEL：(025)285-5511(内線 2419) FAX：(025)285-3790

<報告>

報告 「九頭竜川流域見学会」一宮山・石川地区一

10月9日(水)に「九頭竜川流域見学会」が参加者13名、案内役の建設省福井工事事務所より森国副所長さんとバスの運転手さんを加えた計15名で行われた。

JR福井駅裏(東口)を予定より少し遅れて9:10頃に出発し、バスに乗ること約30分程で九頭竜川鳴鹿大堰の右岸側に建設されている「なるか館」に着いた。この館の1階は事業概要を中心としたパネルや案内ビデオ、九頭竜川に住む魚の水槽や大型ゲートの模型などが展示されており、2階はテレビカメラもあって工事現場が一望できる見学室になっており、九頭竜川についての説明があって、歴史や文化などがわかるようになっている。そして、新設の鳴鹿大堰を見学したが、この堰を建設することにより、既設の鳴鹿堰堤を撤去し、洪水の防御、農業用水、水道用水の安定した取水と、堰下流の河川流量の確保、新たな大野市の水道用水の確保を可能にするという九頭竜川総合開発計画の一貫としての大事業である。なお、約20分間位で、この現場を後にして永平寺に向かい同寺にお参り見学し、約1時間後には永平寺を出発して朝倉氏遺跡の入口付近にある朝倉亭に正午過ぎ頃到着し、そこで約40分間ばかりの昼食となった。

午後は特別史跡に指定されている一乗谷朝倉氏遺跡を見学したが、一乗谷は福井市街の東南約10kmのところにある。遺跡は一乗谷川に沿って帯状に広がる狭い平地と、その両側にそびえる広大な山地からなり、山間部には山城、砦、櫓などの防御施設、山麓には土塁で囲まれた居館や武家屋敷、寺院、町屋などの跡が多くみられる貴重な遺跡であるといわれているが、その館跡や庭園、そして、発掘調査で検出した遺構に基づいて、また、その塀の石垣や建物礎石をそのまま用いて約200mにわたって立体的に再現された復原町並を約1世紀にわたる(1471~1573年)戦国時代における朝倉氏(5代)の栄華の跡を偲んだ。さらに、その遺跡を後にして九頭竜川河口(三国)まで行き、最後に断崖絶壁で有名な観光地の東尋坊を見学して帰途に着いたが、JR福井駅には予定時刻より少し早い16時30分頃に到着し解散となった。

当日は天候にも恵まれ大変有意義な見学会となったが、いろいろとお世話になった建設省福井工事事務所の皆様方には厚く御礼申し上げます。

(金沢大学工学部 高瀬信忠 記)

* 関東・中部・西日本支部ニュースより(No. 38 1996年10月発行)は紙面の都合により次号で紹介します。ご了承ください。

ニューズレターに関する問い合わせ先

(社)日本雪氷学会北信越支部編集担当幹事 竹内由香里

〒940 長岡市栖吉町前山 187-16 長岡雪氷防災実験研究所

Tel: 0258-35-7522 / Fax: 0258-35-0020